

外来診察に新診療科目開設

4月より新しく『乳腺・甲状腺』『痛み外来（麻酔科）』『血液内科』の3診療科がオープンしました。

『乳腺・甲状腺外来』では、乳がんや乳房の良性腫瘍、乳腺症、乳腺炎、甲状腺がんや女性の甲状腺腫瘍、バセドウ病、慢性甲状腺炎などを女性専門医が診察します。マンモグラフィや乳腺エコー検査等も行っています。乳房や首の「しこり」「はれ」「痛み」や乳頭からの「分泌物」「ただれ」などがある方はご相談下さい。

『痛み外来』では、頭痛、腰や下肢の痛み、帯状疱疹による神経痛などに対して鎮痛薬や漢方薬を使用しながら神経ブロック注射（痛みの原因となる神経の近くへ麻酔薬を投与する注射）を行っていきます。辛い痛みは我慢しないで早めの受診をおすすめします。

『血液内科』では、健康診断などで指摘された白血球・赤血球・血小板の異常値や異常細胞の出現、リンパ節の腫脹などから血液疾患が疑われる方などを診察します。また、かかりつけ医で血液疾患（貧血、紫斑病、白血病、悪性リンパ腫など）と診断されてご紹介のあった患者さん、総合病院で急性期の治療を終え、安定期に入った患者さんにも継続的に診療していきます。

また、『アンチエイジング外来』では従来の診療に加え、自由診療でシミやあざのレーザー治療や、サプリメントの取り扱いを2階フロアで始めました。

診療科	担当医	診察曜日	診察時間帯
乳腺・甲状腺	鈴木やすよ	月・木	午前
痛み外来	佐藤重仁	火・金	午前
血液内科	永田泰之	木	午後
アンチエイジング外来	鶴 信雄 担当医	水・金 月	(水)午前、(金)午後 午後

『貴陽中医学院第二附属医院』視察団訪問

4月13日、14日の両日に中国貴州省より医師5名を含む7名の視察団をお迎えしました。今回の訪問は新病院（2500床）建設を控え、中国における少子高齢化問題を踏まえての将来ビジョン検討の目的で①高齢者医療の取組み②リハビリテーションの展開③先進医療の視察で来日しました。療養病棟での入浴設備や、リハビリでのセラピストの取組みをはじめ、放射線治療センターでは定位放射線治療の説明を受け、それぞれの分野に大きな関心を寄せていました。



今後の友好の形をより具体化するために、長期の協力システムや、研修生の相互派遣、医療施設・設備の協力などを確認し帰国されました。

第10回すずかけグループ 健康講座

7月4日（土）にクリエイト浜松において、「女性医師による健康講座」を開催します。参加希望の方は、6月1日から申込み受付いたします。詳細は、053（443）1155までお問い合わせ下さい。ご応募、お待ちしております。

手術室 増室工事完了

当院ではこの春、麻酔科常勤医師の配置と乳腺甲状腺科開設に合わせ、手術室の増室工事を完了いたしました。2室の手術室が3室となり、麻酔科医師も2名体制で対応してまいります。これにより、手術待機期間短縮の実現と、増加する手術症例に対処いたします。



新橋町 健康講話

3月16日に新橋町シニアクラブにて鈴木一也病院長が「丈夫な肺で息々人生」の講演をいたしました。お集まりいただいた30名程の会員の皆さんは、興味津々の様子でした。分りやすく楽しい内容で、とても好評でした。



編集後記

平成24年秋の開院に伴い、広報誌「ちから」が創刊され、年数回の発行をしてきました。今回は10号を記念して、表紙と構成を変え「ChikaRa」としてリニューアルしました。今後も、引き続きご愛読ほど、よろしく願っています。

ChikaRa

すずかけセントラル病院 広報誌

Vol. 10

特集 「ペインクリニックについて」



CONTENTS

歓迎 新入職員
新任医師に聞く
お知らせ・イベント情報

表紙の人 すずかけセントラル病院 顧問
麻酔科医 佐藤 重仁



浜松市南区田尻町120-1

TEL : 053-443-0111 FAX : 053-443-0112

<http://www.suzukake.or.jp>

発行 すずかけセントラル病院 広報委員会

発行日 平成27年4月27日

「ペインクリニックとは」

ペインクリニックという耳慣れない科はどんな診療をやっているのでしょうか？ ペイン (Pain) とは「痛み」のことですから、一言でいうと痛みの治療を専門的に行っている科ということになります。

いたみと交感神経

痛みは、身体に異常が起きていることを知らせる警告ですから、まずその原因を確かめることが大切です。同時に痛みは体に有害な存在ですから、警告の役割が終わったら消えてもらわねばなりません。痛みが続くと、自律神経のバランスが崩れ、ストレスの原因である【交感神経の緊張】が強くなり、血液の循環障害が起こります。このため痛みを引き起こす新たな物質が産生され、痛みがさらに強くなります。放置すると、痛みのために【生活の質 (Quality of life : QOL)】がどんどん低下します。ペインクリニックでは痛みをとることに並行して【交感神経の緊張】を抑える治療も行います。

行っている治療

へ麻酔薬を投与する）を行うのが一般的な治療です。リハビリテーションや理学療法を組み合わせて効果を高める場合もあります。痛みの特徴により、近赤外線治療器（スーパライザー）やキセノン光を用いた光線療法、経皮的電気治療（針治療に似た効果）、イオントフォレーシス（イオン浸透療法…皮膚から痛い場所へ麻酔薬を浸み込ませる）などの治療も行います。なかなか治らない頑固な痛みには、高周波熱凝固療法、脊髄刺激電極埋込み術、硬膜外神経癒着剥離術（ラクツカデール法…後述）のような特殊な治療を行います。



痛みをとるため鎮痛薬や漢方薬を使用しながら、神経ブロック注射（痛みの原因となる神経の近く



写真1. 頭痛で一番多いのは女性の片頭痛です。

頭痛

脳の病気や副鼻腔炎などが原因の頭痛（二次性頭痛）以外の一次性頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛）を治療します。一番多い片頭痛は脳の血管が膨らんでまわりの神経を刺激して起こる頭痛で、女性に多く、寝込んだりするほど重症な方もいます（写真1）。



写真2. 星状神経節ブロック注射は痛くない。5歳の子供の顔面神経麻痺にこのブロック注射をしているところ。

帯状疱疹、疱疹後神経痛

帯状疱疹（たいじょうほうしん）は、子供の頃にかかった水ぼうそうのウイルスが原因で起こります。そのウイルスが体に隠れていて、体の免疫力が低下したときに再発します。隠れていた神経から出て活動を再開し、皮膚に帯状の疱疹を作り出します。顔から足までいろいろな場所にできます（写真3）。鎮痛薬の内服で痛みも徐々に無くなりますが、一部の人は神経痛が残ります。この神経痛は普通の治療が効かず、大変やっかいです。この病気は早いうちに痛みを止めてあげると神経痛が残らないといわれているので、写真の患者さんのように病気になった神経の近くで硬膜外という場所に細いカテーテルを入れて24時間痛みがないようにします。このようにできるだけでなく痛みを【完全にとってあげる】ことが大切です。



3-1：頭部の神経にできた帯状疱疹。頭部の後方に痛みをとるためのカテーテルを入れて、硬膜外ブロック注射を持續で行っている。



3-2：胸部の神経にできた帯状疱疹。背中にカテーテルを入れている。



3-3：腰部の神経にできた帯状疱疹。腰にカテーテルを入れている。

腰や下肢の痛み

高齢者になると体を支えてきた腰の骨（腰椎）の負担が増加し、痛みを訴える方が増えます。脊髄の神経を保護してきた【さや】が狭くなっておこる脊柱管狭窄症、上下の背骨がずれておこる脊椎すべり症などが原因で腰や下肢の痛みが出てきます。また、脊椎の手術後に神経に炎症が起きたり、術後の血液がたまったりとすると神経の癒着がおきます。このため、神経のスムーズな動きが妨げられ、血流が障害され、浮腫が発生するため、腰や下肢の痛みの原因となります。このような痛みに対して、米国のラクツカ教授 (Dr. Ruzicka) が考案した特殊なカテーテルを神経の近くまで進めて癒着をはがす治療が注目され、外国では好成績が得られています。神経の癒着をはがしてあげると、神経の動き、血液の流れ、浮腫などが改善し、痛みも軽くなります。この治療ができる病院は日本では限られていますが、すずかけセントラル病院でも行っています。鎮痛薬や漢方薬を併用した神経ブロックでも治らない腰・下肢痛では【ラクツカデール法】を検討しています。

オーダーメイド診療

ペインクリニックでは患者さん一人ひとりの身体的状況やライフスタイルを考えて、QOLの維持と向上を目標に治療方法を選択していきます。前述した病気のほかに、パーキンソン病や膠原病または閉塞性動脈硬化症などによる末梢血流障害なども治療しています（写真4）。交感神経の緊張を軽くして血液循環を改善できる神経ブロックは突発性難聴、顔面神経麻痺、顔面痙攣、多汗症など、痛みを伴わない病気の治療に効果があります。



写真4. 閉塞性動脈硬化症の患者さん。痛くて歩けないと来院。硬膜外ブロックで効果を確認後、腰部の交感神経節ブロック。一か月後に痛み消失。

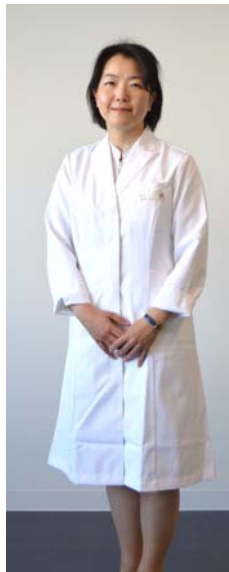


筆者 佐藤 重仁
すずかけセントラル病院 顧問
麻酔科医 (元 浜松医科大学 教授)

新任医師に聞く



健康管理センター 加藤 綾夏



乳腺・甲状腺科 鈴木 やすよ



麻酔科 佐藤 重仁



健康管理センター 青木 伸雄



麻酔科 佐藤 恒久

長年、健康づくりを常に念頭に置いて公衆衛生学の分野に携わってきました。これまでの経験を活かしながら、特に二次予防に努めたいと思っています。

医師 青木 伸雄 健診センター

4月からお世話になっています。手術室で「麻酔をかける」ことと、「痛み外来」を担当します。医者を始めて40年経ちますが、なりたての頃にくらべると、全身麻酔は格段に安全になりました。痛み外来は対象疾患の増加とともに、高齢化社会に特有の痛みもあり、需要が増えています。顧問という役職は少しフアジーですが、名刺に『Advisory Doctor』と記し、少しイメージが湧くようにしました。実際はAdviceの枠を超えて普通の医師として働いています。40年の経験を活かしながら日々臨床を楽しんでいます。サッカー（練習と日本代表の観戦）と釣りが好きです。子育てが終わったので裏庭で【野菜育て】も楽しんでいます。よろしく願います。

顧問 医師 佐藤 重仁 麻酔科

皆さん、こんにちは。4月より乳腺甲状腺科へ参りました、鈴木やすよです。女性患者さんの多い科ですので、ゆっくりお話を伺いながら、皆さんとチームを組んで診療をしていきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

医師 鈴木 やすよ 乳腺・甲状腺科

健康への意識が高まり、ご自身で健康管理を心がける方が増えてきました。その一方で【健康に気をつけたい】と思っているけどどうしたらいいのかわからない【、きつかけがつかめない】という声も多く聞かれます。健診や人間ドックではただ、検査をするだけでなくその結果から受診者の方の生活スタイルをふまえた上で、実践的な日常生活へのアドバイスを行います。健康管理へのきつかけをつかんでいただきます。医師、看護師、保健師、栄養士など多くのスタッフと協力し合い皆様の健康を支えていきたいと思っています。よろしく願います。

医師 加藤 綾夏 健診センター

医師 佐藤 恒久 麻酔科

このたび麻酔科で勤務することになりました、佐藤 恒久と申します。専門は主に手術麻酔です。伊豆半島の伊東市生まれ、浜松の大学を卒業、という生粋の静岡県人です。どうぞ宜しくお願い致します。